

10月17日(月)

## 私 たち を 導 か れ る 神

聖書朗読 イザヤ 12：1-6

見よ。神は私の救い。私は信頼して恐れることはない。ヤハ、主は、私の力、私のほめ歌。私のために救いとなられた。 イザヤ 12：2

イザヤ書12章のキーワードの一つは、「救い」です。2節と3節で合わせて3回出てきます。

イザヤは、イザヤ書の最初の11章において、イスラエルの不義と、アッシリア人によるイスラエルの破壊（アッシリア人を通してなされる、イスラエルに対する神の裁き）を予告しています。しかしながら、神のご計画は「イスラエルの破壊」では終わりません。神様は、裁きを受けたイスラエルに新しい王をお遣わしになり、その新しい王が「神の民」を治めるようになるのです。これは、「第二の出エジプト」とも言える、神による救いのご計画とも言えましょう。

モーセによって導かれた、言わば「最初の」出エジプトの出来事がどのように展開したか、考えてみて下さい。イスラエルの人々は、エジプト軍に追われて危機的状況に陥りましたが、奇跡的な方法で紅海を渡り、彼らは次のように神を賛美しました。

「主は、私の力であり、ほめ歌である。主は、私の救いとなられた」（出エジプト15：2）。では、「第二の出エジプト」とも言える、アッシリアによる抑圧からのイスラエルの人々の解放の場合はどうでしょうか。この場合も、イスラエルの人々は神に賛美の歌を歌います。それがイザヤ12章の内容とも言えるのです。

では、こんにち生きる私たちの場合はどうでしょうか。私たちも何らかの大いなる困難と直面することがあります。しかし、神は私たちを決してお見捨てにはなりませんので、私たちも（イスラエルの人々と同様に）神によって困難から救い出され、賛美の歌を捧げることになるのです。困難から救い出された時、「主に感謝せよ。その御名を呼び求めよ。そのみわざを、国々の民の中に知らせよ」（イザヤ12：4）とのイザヤ書の賛美の言葉を、私たちも心から口ずさみたくなることでしょう。そして、「主をほめ歌え。主はすばらしいことをされた。これを、全世界に知らせよ」（イザヤ12：5）と歌いつつ、私たちも神を賛美したくなることでしょう。

讚美歌 448

祈り 天なるお父様、あなたは、私たちを窮地、悲しみ、そして何よりも罪から救い出してくださいました。御名を賛美致します。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ポール・L・ワトソン  
ノースカロライナ州ダラム

## 今日 の 力

2022年10月17日～10月23日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月18日(火)

## 恐怖と直面する時

聖書朗読 イザヤ 41:8-14

恐れのある日に、私は、あなたに信頼します。神にあって、私はみことばを、ほめたたえます。私は神に信頼し、何も恐れません。肉なる者が、私に何をなしえましよう。  
詩篇 56:3~4

ある時、私たちは、用事があって車で長距離を移動しました。その日、高速道路上では、いつもにも増してどの車も皆凄まじいスピードで走行していて、私たちは恐怖さを感じました。移動中、恐怖感から私の胸はずっとドキドキし続け、手は汗と共にアームレストを握りしめ続けていました。高速道路からの景色は綺麗だったのですが、景色を楽しむ余裕など、全くありませんでした。ようやく目的地にたどり着いた時には、私は心底疲れ切っていました。そして、後になってから気付いたことが一つありました——出発前、私たちはお祈りをしていませんでした。もしお祈りしていたら、私たちは、(神様からの平安を頂いて)移動中もう少し心にゆとりがあったのかもしれない。そして、美しい景色を楽しむことも出来たのかもしれない。

この出来事の後、私は次のように心に決めました。「長距離運転をする際には、まず神様にお祈りして、私の不安を神様に委ねよう」と。もちろん、お祈りすれば緊張が完全に無くなるという訳ではありませんが、少なくとも私の場合は、運転する前にお祈りをする、運転中極度に緊張することは避けられるように思います。

私たちが、意識してイエス様に心の目を注いでいくとき、私たちは「恐れ」から解放されていきます。そして、私たちの心は、「神を崇め賛美する心」へと変えられていきます。私たちが「恐れ」を感じる時、私たちは心の目を神様に向けてみましょう。心の目を神様に向けることは、私たちの心から「恐れ」を少しでも無くしていく上で、大変重要なことだと思います。そして、私たちの心から「恐れ」が少しでも無くなっていくとき、私たちは、人生という旅路に「恐れ」よりもむしろ「喜び」を見出せるのだと思います。

讃美歌 520

祈り 神様、恐怖を感じた時こそあなたを見上げることが出来ますように。私たちの心に平安をもたらすことが出来るのは、神様だけです。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェリル・M・ペーカー  
インディアナ州レポート

10月19日(水)

## 想像できますか？

聖書朗読 イザヤ 53:3-6

イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。」

ヨハネ 17:1

ちょっと想像してみてください。人々から軽蔑され、拒絶され、嫌われる、ということ。イエス様は、それらのこと全てを、私たちのために経験し耐え忍んで下さいました。あなた自身があざ笑われたり、唾を吐きかけられたりすることを想像してみてください。正にそのような屈辱を、イエス様は私たちのために経験し耐え忍んで下さいました。

完全に見捨てられる、ということ想像してみてください。イエス様は、人々から——最も親しくしていた弟子たちからさえ——完全に見捨てられました。荒削りの木で作られた十字架に、あなたの手足が釘で打ち付けられる、などと言うことは、想像したくもないことでしょう。しかし、イエス様はそれを私たちに代わって経験して下さいました。イエス様は、ただ一人で、私たちが本来負うべき「死」を全面的に負って下さいました——ただただ、私たちのために、私たちを愛するがゆえに、です。

普通、私たちは、「私たちに恐怖を抱かせるようなもの」から逃げたいと考えます。イエス様は、(主イエスの十字架という)恐ろしいことがご自身に起こることを、予めご存知でした。それにもかかわらず、主イエスは、父なる神のみこころである主の受難を受け入れました。私たちのために主が苦しまれる道を、主イエスはお選びになったのです。

イエス様が経験して下さいました苦しみを、もし私自身が経験しなくてはならないとしたら、私は考えただけで身震いしてしまいます。それほど大きな苦しみを、主は私たちのために負って下さいました。それは、私たちが神様の子供とされ、永遠のいのちを頂くことが出来るためにです。そして、そうすることによって、神様のご栄光が輝くためにです。すべてを捧げて下さったイエス様に、私は、ただただ感謝するばかりです。

讃美歌 142

祈り 全能なる父なる神様、御一人子イエス様を私たちに与えて下さり感謝します。そして、イエス様が負って下さった、私たちのための大なる苦しみを覚え、心より感謝いたします。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リンダ・パルマン  
ミシガン州ベウラ

10月20日 (木)

## 神様の光

聖書朗読 イザヤ 60:19-20

あなたの太陽はもう沈まず、あなたの月はかげることがない。主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆き悲しむ日が終わるからである。 イザヤ 60:20

私にはお気に入りの場所が二箇所あります。両方とも座るための場所で、太陽の光がよく当たる所です。一箇所は、自宅の、絵が掛かっている脇の窓で、もう一箇所は、コーヒーショップの外の席です。神様が造られた自然の光は、癒しと喜びを与えてくれ、そして心身共に暖めてくれます。個人的には神様が造られた創造物の中で、太陽の光が一番美しいと思っています。なお、研究によると、適度に太陽の光を浴びることは、私たちの健康にも良いとの結果が出ています。

詩篇の著者は、「あなたは光を衣のように着、天を、幕のように広げておられます」と詩篇104篇2節で表現していますが、この聖句は、私たちに大切なことを教えていると思います。神様はまずご自身を光で包み、そして天幕を広げるように、その光をお広げになるのです。なぜでしょうか？ それは、神様の光によって私たちが照らされて、私たちが祝福を受けるためです。私たちは、神様の光のないところで生きることが出来ません。

聖書(創世記から黙示録まで、聖書の全体)には、「神の光」について書かれている箇所が割と多くあります。御子・主イエスは「光」であられる、とも書かれています。また、私たちクリスチャンは、この地上で神様の光を反射させて輝かせる役割を与えられている、とも書かれています。もし私たちが、辺りを神様の光で照らすことが出来るような機会が与えられたならば、私たちはその機会を大切に、神様の光を輝かせましょう。神様の光は、私たちを良い方向へと導き、そして、永遠に輝き続けることが出来る光です。

讚美歌 533

祈り あなたが放って下さっている光を感謝します。日々、あなたの光の内に生き、あなたの光をこの世界で輝かせることが出来ますよう、お導き下さい。イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

シェリー・リームス  
テキサス州ラボック

10月21日 (金)

## 根を吟味する

聖書朗読 エレミヤ 17:7-8

こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎をおいているあなたがたが・・・

エペソ 3:17

ある時、私のひ孫の一人が、タンポポで花束を作って、私の娘にプレゼントしました。私は、その様子をほほえましく感じながら見ていました。ちなみに、そのタンポポは、私の家の庭に生えていたもので、(タンポポが増えすぎて困っていた私)ひ孫がタンポポを少し摘み取ってくれたので助かりました。こうして、庭のタンポポは少し減ったように見えますが、また暫くしたら、きっとたくさん生えてくることでしょう。なぜなら、タンポポの花は摘み取られましたが、タンポポの根は、(根こそぎ引き抜かれてしまったのではなく)庭にそのままあるからです。

この出来事の後、私はふと思いました。「植物には花と根の部分があり、私たちは花に注目する一方、根にはあまり注目しない。しかし、地上からは見えなくても、植物の根は深く張られているのだなあ」と。そして、「植物の根は、その植物にとってとても大切な部分なのだなあ」と。

私たちの信仰生活においても、私たちの心の中にどんな「根」が張られているのかを吟味することは大切なことだと言えましょう。私たちの心の中にある「根」は、神様のご栄光を現すために用いられるような「根」でしょうか。それとも、神様に喜ばれないような行動を私たちに起こさせるような「根」でしょうか。例えば、憎しみや情欲、嫉妬といった思いは、神様に喜ばれない行動を起こさせる(心の中の)「根」と言えましょう。もし、そのような「根」で心の中が一杯になってしまっている方がおられるならば、その方は、神様にお祈りしましょう。そして、心を霊的に耕して頂き、神様のご栄光を証しするために用いられる新しい「根」を、心に植えて頂き、育てて頂きましょう。

讚美歌 352

祈り 私たちの中にある、悪い根を取り除いて下さい。そして、神様のご栄光が、私たちを通して少しでも証しされることをお祈りいたします。イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

マーク・ヤング  
サウスカロライナ州コロンビア

10月22日 (土)

## 神様の栄光のため

聖書朗読 エレミヤ 17:9-10

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。ローマ 12:2

こんにちの私たちの社会では、社会で成功するために「最高の自分を作れ！」と呼びかける広告などをよく目にします。その意図するところは、「自分を高めて、自分がいかに優れているかをアピールしなさい」ということだと思います。しかし、聖書に照らし合わせて考えてみますと、「最高の自分を作れ！」と言う時の「最高の自分」とは、神様を無視して自分自身に抛り頼もうとする態度であったり、うぬぼれの態度を取ることで大して変わらない場合がよくあります。それは、エレミヤ17章9節で表現されている人の心と重なるように思います。「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう」(エレミヤ17:9)。

仕事でも、学校でも、教会における奉仕においてでさえ、私たちは、「誰よりも優れた功績を残したい」と思うことがあるかもしれません。私たちは、自分が為した仕事や奉仕に、誇りを感じることもあるでしょう。ですが、私たちが忘れてはならないことは、私たちが成す仕事や奉仕は、私たち自身の栄光のためではなく、神様のご栄光のためになすべきである、ということです。

ですから、大切なことは、「最高の自分」を自分自身で作出すことよりも、私たちが神様の光を出来るだけ明るく反射させること(神様のご性質を私たちの生き方を通して証していくこと)なのではないでしょうか。そしてそのような生き方をしていくとき、私たちは霊的に不健全な意味での「最高の自分」の追求ではなく、神様のみこころを求め心が与えられるのではないのでしょうか。私たちのプライドではなく、神様の光を私たちの生き方を通して輝かせましょう。

讚美歌 533

祈り 神様、わたしたちの心を探って下さり、私たちが造り変えて下さることを感謝いたします。心を開き、御心に従うことが出来るようお導き下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ブルーデンスC・ウイリアムス  
カリフォルニア州エスコンディード

10月23日(日)

## 祈りに耳を傾けて下さる神

聖書朗読 エレミヤ 29章

私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。詩篇 121:1~2

ジェーンは人生で難しい局面を迎えていました。その時彼女には、個人的な問題が次から次へと起こり、また支払いをしなければならぬ請求書が山積みとなっていました。彼女の信仰は、根幹から揺らいでいました。そして希望をなくしていました。彼女は、教会の牧師との面談の予約をとり、そのことについて話し合いました。牧師は、彼女の話聞き、いかに彼女の信仰が根幹から揺らいでいるかを理解しました。ジェーンは長いことを祈っていませんでした。そして牧師は、彼女に毎日祈ることを提案しました。

ジェーンは、「神様は本当に祈りを聞いてくれるのか? 自分の祈りが神様に届くのか? 神様は私の問題に耳を傾けてくださるのか?」、そうした問いを牧師に投げかけました。時に、私たちもジェーンと同じような問いを心に抱くかもしれません。

私たちは、試練の中で心が折れそうになる時、「神様は私たちの問題に対して何もしてくださらない」と感じる場合があります。しかし、神様は最善のタイミングをご存知で、その御心にかなった最善のタイミングで、私たちを導き、祝福して下さるので

です。ですから、先程のジェーンの疑問に対する答えは、「イエス(はい、そうです)」なのです。神様は、私たちが祈る時に耳を傾けて下さると約束しておられます。私たちが神様を探し求める時、神様は私たちに会って下さいます。ですから、私たちは心から神様を求め続けましょう。そして、日々祈り続けましょう。神様は私たちのことを良くご存知で、私たちが深く愛してくださっています。神様に全幅の信頼を置きましょう。神様は、私たちを決してお見捨てにはなりません。

讚美歌 517

祈り 困難な状況に置かれた際、私たちは途方に暮れてしまうことがあります。そんな時、私たちがどうか導き、お守り下さい。イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ポール・ダレティ  
テネシー州ナッシュビル